

特研図書
856
31





系譜

いふはるやあはれ

花の

夕方あはれあはれの
何れあはれあはれの
あはれあはれあはれの

いふはるやあはれ

花の

特研図書
31
No. 856
中村(俊)
32.5.1



海^{タチ}老の治堂いふまへ
 一編くふ語をさす
 河を流るを

海老と鰐脰ぬりし海原――

武陵芭蕉翁拙書

吾翁之文章於子羽州

系沼齋州菴立園寫

元文初めとて三月の末つる武陵と云くは
 けらやらの海老と鰐脰ぬりし海原の老くも
 吾翁と云ふは海老のつらき海原の老くも
 一冊かきしりて三月と云くは海原の一冊
 と云くは海老と鰐脰ぬりし海原の老くも
 元文初めとて三月の末つる武陵と云くは
 けらやらの海老と鰐脰ぬりし海原の老くも
 吾翁と云ふは海老のつらき海原の老くも
 一冊かきしりて三月と云くは海原の一冊
 と云くは海老と鰐脰ぬりし海原の老くも
 元文初めとて三月の末つる武陵と云くは
 けらやらの海老と鰐脰ぬりし海原の老くも
 吾翁と云ふは海老のつらき海原の老くも
 一冊かきしりて三月と云くは海原の一冊
 と云くは海老と鰐脰ぬりし海原の老くも

知るにおもくきゆるみかあそんちと
下指ハ強しとあしあそゆるし縁を掩ひる
らちのり終て

おのりあしをゆきと舟中しゆのり 磨州
くさし舟日ハ舟をよしりてあとのききと
又しやと強ハ此りてき定ふ乃藤法影寺
のぼりし舟あし川あり野後無人舟自横
まふもあし

舟中一人舟中ら此ゆきを舟中
かき崇阿とあし舟曲おしり行あし
健養のしゆの杖とあしあて八舟あし一趣向

りしゆと強しとあし

らびろくも小舟のあしと健養のし 朱滴

藤藤緑の湯とあし舟あしハけ舟とあしあて

舟中し舟中あしとあしあしとあし 艸

舟中し舟中あしとあし

舟中し舟中あしとあしあしとあし 雨吟

舟中し舟中あしとあしあしとあし

舟中し舟中あしとあしあしとあし 後角

舟中し舟中あしとあしあしとあし 後一

舟中し舟中あしとあしあしとあし 水玉

舟中し舟中あしとあしあしとあし 後一

唐の川舟の毛紙や汁の写中

唐の角

江の合々々氷のつら〜川柳

一刷も毛紙の毛紙を〜川柳の毛紙

絳雀

又毛紙の毛紙

木の〜の毛紙を〜毛紙

芳所

形は毛紙の毛紙を〜毛紙

角角

甲〜の毛紙を〜毛紙

通〜の毛紙を〜毛紙

物の枝子に毛紙を〜毛紙

毛紙〜毛紙を〜毛紙

毛紙〜毛紙を〜毛紙

毛紙〜毛紙を〜毛紙

毛紙〜毛紙を〜毛紙

毛紙〜毛紙を〜毛紙

毛紙〜毛紙を〜毛紙

毛紙〜毛紙を〜毛紙

毛紙〜毛紙を〜毛紙

毛紙〜毛紙を〜毛紙

毛紙〜毛紙を〜毛紙

毛紙〜毛紙を〜毛紙

毛紙〜毛紙を〜毛紙

三

花是より一花の命一と清川子三休一
花のよき村の昔は中亭しち流り流る
花のよき村の昔は中亭しち流り流る

花のよき村の昔は中亭しち流り流る

腐州

花のよき村の昔は中亭しち流り流る

如州

花のよき村の昔は中亭しち流り流る

行石

花のよき村の昔は中亭しち流り流る

井雅

花のよき村の昔は中亭しち流り流る

地而

花のよき村の昔は中亭しち流り流る

晉子

花のよき村の昔は中亭しち流り流る

花のよき村の昔は中亭しち流り流る

心野

花のよき村の昔は中亭しち流り流る

花のよき村の昔は中亭しち流り流る

花のよき村の昔は中亭しち流り流る

花のよき村の昔は中亭しち流り流る

花のよき村の昔は中亭しち流り流る

花のよき村の昔は中亭しち流り流る

花のよき村の昔は中亭しち流り流る

花のよき村の昔は中亭しち流り流る

花のよき村の昔は中亭しち流り流る

花のよき村の昔は中亭しち流り流る

花のよき村の昔は中亭しち流り流る

百韻のしるし八句

雪垣や米お月と如くて後さ入子

廢州

小妻よつれくまのふさふさ山を

方上

又名の所用方福きあひくしり

中

うた一ゆりくさくさしく暗の屋

梅系

あまのついでまき色めまはくうも

妻妹

はとふ基盤りのそふ天目

永秋

新うた梅よくはくげめあひ

呉を

厚ハるくくせとの春うたえ

片石

あまのついでまき色めまはくうも

せめてと一東と笑も非なる鞋杖をるく

すれ人よおしとりのあまのついで

方上

とれとゆてゆめ自らのあまのついで

中

はあしはくそあまのついで

妻妹

あまのついでまき色めまはくうも

呉を

うた一ゆりくさくさしく暗の屋

梅系

呈立圖帳子格別

あまのついでまき色めまはくうも

中

はあしはくそあまのついで

妻妹

あまのついでまき色めまはくうも

うた一ゆりくさくさしく暗の屋

片石

あまのついでまき色めまはくうも

法とせられたるに於て古帽子
日中自光の曇りては日くさるるに
とつあり入口と静後河急を
るるに南をのまふはまの
先て

申の別菅祠を終りまじり
しまのたけとてはのれ
中南河しむたはつひ
うまあつまのふれ
やまの

聖廟奉納

おに後橋

松子集く社にる境のまあり
池の浦とらハ跡に海を襟として
にしり流るる合の海流なり
海川と竹ありや水のい
部とひやうとてをてて
振うまゆりて酒田より二里
こ子にのさぬりあり
海流なりとて
とて

ふもるやまの古川
州

屋の垣あめさししつれり感慨をよすしと河
勢九十九の碇八十八乃浮もよめかきしつと
えりハ珠とあしつる家もく成一もよもよ
清めりし河勝の境もよめ世の人たると
築ぬまハのハ海夕も翻しに村回津乾せん
捷経とよましくその中ハのくても全りり
あまねら海やを神たのめりて村おもいよめ
あ一村を海しぬとあま海田とくしハま
あといハるも海らのゆりて浦とらハる
るよお下りる

廣州

高麗
高麗やあまを吹也むお河

崑崙

本村よめさしつれりる

年月を
海田一河りん地

常一のひく一かもさ河して
ま縁段ト一立とあり
る事くくもめらがるる
うらつ一糸文子あし
清正柳と一果文子あし
るやめさし中利を

南山
寸松
菊石
居遊
重英
卅

あつと云やまうりてそくはしは
大徳と云ふは天乃うたに
と女ハつさうりかうまを
去川ゆきく為牛一歳刻
るあくまうり改中の乳婦
音の如くのうりかうり
忠の徳の本ハ床あらにうり
り花の都り一塵もて無常寺
大概まうりかうりまをうり
まもこのひがま始り一掃
うり遠くうりかうりかうり

松山芝石 遊不 州英 山遊 石

唯あつと云うの如くは
まうりて入まて持つてまを
忘れかこのまうりかうり
市原の稲花まうり社か
まはまうりかうりか
洞窟といふまうりか
つ月お世上海流すま
有卦お入らるま
まもまもまもまも
まもまもまもまも

芝英竹遊 不書 山芝 英不 州

園家内十三年部より金ついで編みし山よりの
お好むにうりやあてりしむたアに能く
物たりあり

庭ついでと白脂乃ゆら定まらば 州

糖拂いやうりれ世もか無慮

とくし人の中を繁くのさかるとり
おろるみくしにまらひもさしはし
とみくあふ

とのあや解も酒さのあふは 州

元文二年於元且

酒田の序成とあつたといふ

草葉にわりのろやあつた 州

薔薇苑斗南のろも細ありてまきやうり、骨
百如と改めす

草葉

ふ代とつむあつたあを物さし草葉 百如

那屋やあつてはてそのあつた 州

初年、新代のあつてはてそのあつた

ま川もまやあつた脊戸の下向る 州

初年やあつた八分味、あつた 百如

涅槃

笑解ハ初らんのもや大なる

蛙妻約 是ハ平ノ互好ノ中ニ在リ

一のり 九身ノ中ニ在リ 用星

一のり 九身ノ中ニ在リ 用星

五太院 一

一のり 九身ノ中ニ在リ 用星

一のり 九身ノ中ニ在リ 用星

武江の先 武江の先 杜干

本 本 龍藍

一のり 九身ノ中ニ在リ 用星

一のり 九身ノ中ニ在リ 用星

一のり 九身ノ中ニ在リ 用星

漢和の一 漢和の一 龍藍

一のり 九身ノ中ニ在リ 用星

一のり 九身ノ中ニ在リ 用星

一のり 九身ノ中ニ在リ 用星

一のり 九身ノ中ニ在リ 用星

一のり 九身ノ中ニ在リ 用星

一のり 九身ノ中ニ在リ 用星

一のり 九身ノ中ニ在リ 用星

一のり 九身ノ中ニ在リ 用星

一のり 九身ノ中ニ在リ 用星

と出流して仰つてゐる。み入るゝ
物とてゝあつたのさけに漆の

葉白浅家に

梅もさやうの冠をうゝのさか
散清

深きささきとてあつたのさけに柳のさか
意威

物とてゝあつたのさけにさか
ま辛

雛 ふのさかせるせめあつたのさけに
あつたのさけに

ふのさかせるせめあつたのさけに
州

持てゝあつたのさけに
州

佐佐の流ささきとてあつたのさけに
州

鳥後史法海子

彫ハあつたのさけに
州

あつたのさけに
佐佐

信のさかあつたのさけに
鷹州

子梅あつたのさけに
鷹州

果のさかあつたのさけに
己百

懐中物とてあつたのさけに
権統

あつたのさけに
等弓

たつたのさけに
清水

あつたのさけに
南杏

あつたのさけに
翠葉

芳野よりの奥と江印の深谷隈
十と流し〜のきんりや
花さの地々花の考す文編
さあ〜の観音寺〜

浦水
磨州
荒初
己不

後別

荒上川をぬりぬりゆりゆり
あ〜〜とあ〜〜ききあ友
山崩の嵐お〜〜を〜ん
〜の海〜〜る圃圃ふり
〜と〜の世〜も〜の世

百如
磨中
閑里
水缸
摩糸

降〜〜り〜〜丁〜〜花
花〜尔〜き〜る〜と〜行〜使
昔昔よ〜の〜てハ朋声も〜
涼〜〜〜〜〜と〜〜不研
竹の〜人〜と〜〜〜大
凌〜〜〜〜〜の〜〜白
〜〜と〜〜代〜〜〜ん
水持伸〜〜の〜の〜口〜
〜〜の〜の〜の〜の〜
〜〜力〜〜の〜の〜
〜の〜の〜の〜の〜

新藍
水竹
不
知
系
龍
薄
中
和
宗
如

葉をうらふの序ありし内々さく

うきうきと申すの枝々さく

庚子三月三日に角と文

えとやうして一平す記

あせよ下地を純一と澄に書

いふとばうりよ書めふ川

あまよりの人よれと純一と

産の此の序丁きざりて

うきく二人の中にも建てる

あまよりのきねと澄に書

あまよりの荒さうり

終

中

葉

采

不

於

和

序

中

如

采

産の物難きう半からハ編

をえと記すはこふ仲とて

ウ ね唯さくや記とめらる

本陣の序もあやれ振の書

あつたうりてあやれ

物たきき記すも答せよ

あつたうりてあやれ

あまの風とて記す

あつたうりてあやれ

あまの風とて記す

和

葉

百

能

和

子

中

如

采

奉納 正一位大物忌神社
出羽一宮鳥海山

一王子	先師の一柱とよやんめり肩	仁々
駒五子	軌々出羽のしりやその家	南山
美王子	八束穂のめらやその外に	吾山
法次口	おの森さハおら此垢計や茶の香	却煉
赤滝	木かりのみねしん流おま	周里
室伏	の〜伏やよあ研と軌かんる	尾芝
おん作	是も清くとも見え作や十二部	浪市
勢山	おんや乃やま法とるるま	南山

八丁坂	八世丹の燈火瑠と〜坂	於藍
龍燈岩	竜燈や眠ふよのにハゆ〜	尾芝
川倉宿	〜川系流の〜とや〜	藤巻
筋坂	〜い〜鬼や音〜て筋さ	洞水
伏抜嶽	〜の〜とと名分〜〜の	才松
行者嶽	〜の〜者此業〜ぬゆ〜	金英
千蔵谷	千蔵の名〜肩〜や井の妙業	斗南
姥月光	山姥の膝〜と光や〜	角田
胎内沼	〜の〜此勢給因〜有〜	如悠
庭分坂	〜の〜名〜茂〜ま〜り林の	治三
荒神嶽	荒神の〜け乃鉦や飛〜	居遊

文殊嶽

柳子に寄る呪もやいそに嶽様

虎砌

龍駒

すし出と相よいすくまぬ

胡蝶

七高山

やうい海と相いあつふふふ

已百

虫穴

穴のく庭とむの岩戸に

巴月

竜池

ふむのや相いあつふふ

法小

雲地流

まじ流や井代のり川の流

藤巻

福徳壺

身流とつあつて音やあつ壺

如小

注連外

も流とつあつて音やあつ壺

琺瑯

地石

まじ流とつあつて音やあつ壺

等弓

多海

ぬの肩の葉とつあつて音やあつ壺

曲尺

鍋煮

時とあつて音やあつ壺

巴流

八丁坂

好揚や相いあつて音やあつ壺

糸竹

生々嶽

まじ流とつあつて音やあつ壺

棠不

多海山

まじ流とつあつて音やあつ壺

如虹

余奥

羽黒山

山有とつあつて音やあつ壺

尾呈

月山

名有とつあつて音やあつ壺

藤巻

鉢田流

流有とつあつて音やあつ壺

可也

峯上川

山有とつあつて音やあつ壺

已百

衆ヶ湯

山有とつあつて音やあつ壺

棠不

飯煮山

山有とつあつて音やあつ壺

曲尺

池浦

山有とつあつて音やあつ壺

小湊 ありけの川とて地味小 虎砌
 毛鹿伏 待つてのこもぢりし 於藍
 象浮 名もゆり 深と静とのあくまじり 全英
 有蓋冥 くらむのしるまのうらな素の声 巴信
 神矢根 志州地よなれ 〇とまらばをまじ 如水
 三橋山 遠のほろきやこまらぬのまをたゆ 夢水
 世匠 蝶さるる帆やまのほれすこのむ 夢弓
 山 名と死る郡やまをすろ中二舉 仁々
 巖長 とうあす幸夷と帯やけいし是 権記
 大物志 幸とてはく 茶ぶらう 斗南
 元文二年己丑月朔日
 新田謙徳

美林の句と
 ありけの川

ありけの川とて地味小
 虎砌
 毛鹿伏 待つてのこもぢりし 於藍
 象浮 名もゆり 深と静とのあくまじり 全英
 有蓋冥 くらむのしるまのうらな素の声 巴信
 神矢根 志州地よなれ 〇とまらばをまじ 如水
 三橋山 遠のほろきやこまらぬのまをたゆ 夢水
 世匠 蝶さるる帆やまのほれすこのむ 夢弓
 山 名と死る郡やまをすろ中二舉 仁々
 巖長 とうあす幸夷と帯やけいし是 権記
 大物志 幸とてはく 茶ぶらう 斗南
 元文二年己丑月朔日
 新田謙徳

海にまゝく流るる

凡中の尾上流くも皆やあらん法 吾山

山物と又流るも皆か所あり特 巴信

流子えん流るるも一と鮎もさあぬる

昔も冬枯るもあらう志圖先生よきこのひ

能きとさうけりもあつたといふ

あまのまのまにさやの流るる流るる

とひひす

あまの流るるやあまの流るる 古麻菴 南山

新降にあまの流るる徐慶とさうたさひ

あまの流るるとつらぬけり

あまの流るるとつらぬけり 岸芝

あまの流るるとつらぬけり 岸芝

あまの流るるとつらぬけり

能因のあまの流るるとつらぬけり 金英

鳥流欄え生るる昔流るるあまの流るるとつらぬけり

あまの流るるとつらぬけり 岸芝

あまの流るるとつらぬけり 岸芝

あまの流るるとつらぬけり 岸芝

あまの流るるとつらぬけり 岸芝

塞くも流るるとつらぬけり 岸芝

あうのなをそは得しむるもえらるる心せしひ
あしこぬ更しとらるる心せしひ
舞白は舞友ありし希きり別まおちあ
し

あうのなをそは得しむるもえらるる心せしひ
あしこぬ更しとらるる心せしひ
舞白は舞友ありし希きり別まおちあ
し

あうのなをそは得しむるもえらるる心せしひ
あしこぬ更しとらるる心せしひ
舞白は舞友ありし希きり別まおちあ
し

あうのなをそは得しむるもえらるる心せしひ
あしこぬ更しとらるる心せしひ
舞白は舞友ありし希きり別まおちあ
し

あうのなをそは得しむるもえらるる心せしひ
あしこぬ更しとらるる心せしひ
舞白は舞友ありし希きり別まおちあ
し

あうのなをそは得しむるもえらるる心せしひ
あしこぬ更しとらるる心せしひ
舞白は舞友ありし希きり別まおちあ
し

あうのなをそは得しむるもえらるる心せしひ
あしこぬ更しとらるる心せしひ
舞白は舞友ありし希きり別まおちあ
し

あうのなをそは得しむるもえらるる心せしひ
あしこぬ更しとらるる心せしひ
舞白は舞友ありし希きり別まおちあ
し

あうのなをそは得しむるもえらるる心せしひ
あしこぬ更しとらるる心せしひ
舞白は舞友ありし希きり別まおちあ
し

あつたふりなりぬとまらねあふる也 不如
いづれにやいづれにやいづれにやいづれにや 唐州
えんちん一歩ゆき海苔の巻撰て 写り
那敷とつとむ折れと物 新巻
侍よりかきぬとまらぬ二物に 尻御
作らけは舟にれがてふ 己不
るにまらぬつれなりぬと物に 可松
いづれにやいづれにやいづれにや 卷巻
日大甲の清川へあつてつと色久らりゆき 卷巻
とらぬの巻巻あつた巻巻あつた 卷巻
日大甲の巻巻あつた巻巻あつた 卷巻

あつたふりなりぬとまらねあふる也 不如
いづれにやいづれにやいづれにやいづれにや 唐州
えんちん一歩ゆき海苔の巻撰て 写り
那敷とつとむ折れと物 新巻
侍よりかきぬとまらぬ二物に 尻御
作らけは舟にれがてふ 己不
るにまらぬつれなりぬと物に 可松
いづれにやいづれにやいづれにやいづれにや 卷巻
日大甲の清川へあつてつと色久らりゆき 卷巻
とらぬの巻巻あつた巻巻あつた 卷巻
日大甲の巻巻あつた巻巻あつた 卷巻

折るも柳花をよむるもさうらひも物もさうらひ
あゝ——花多かりしよとてさうらひも時と経
たふさうらひさうらひとさうらひとさうらひ
中へさうらひさうらひさうらひさうらひ

井上ひさし 節一

祝ふさうらひさうらひさうらひさうらひ 十歩
さうらひさうらひさうらひさうらひ 長
さうらひさうらひさうらひさうらひ 横へ
さうらひさうらひさうらひさうらひ 十歩
さうらひさうらひさうらひさうらひ 十歩
さうらひさうらひさうらひさうらひ 十歩
さうらひさうらひさうらひさうらひ 十歩

さうらひさうらひさうらひさうらひ 柳花
さうらひさうらひさうらひさうらひ 山吹
さうらひさうらひさうらひさうらひ 山吹
さうらひさうらひさうらひさうらひ 山吹
さうらひさうらひさうらひさうらひ 山吹
さうらひさうらひさうらひさうらひ 山吹

さうらひさうらひさうらひさうらひ 柳花
さうらひさうらひさうらひさうらひ 柳花
さうらひさうらひさうらひさうらひ 柳花
さうらひさうらひさうらひさうらひ 柳花
さうらひさうらひさうらひさうらひ 柳花
さうらひさうらひさうらひさうらひ 柳花

浦ありしは海と海のぬき

よし女やさぬのうへ海に植へる

州

娘抄

さうしてハ係とてさうさうさうさう

恒電

様人

またの白河のさうさう

茶やれハもさうさうさうさう

またのさうさうさうさうさうさう

またの海にさう

松崎ハ配とて新にさうさうさう

州

またのさうさうさうさうさう

またのさうさうさうさうさう

またのさうさうさう

またのさうさうさうさうさう

州

おま

おまのさうさうさうさう

またのさうさうさうさう

またのさうさうさうさう

またのさうさうさうさう

またのさうさうさうさう

またのさうさうさうさう

またのさうさうさうさう

またのさうさうさうさう

晴山

奈角

芳城

うらたつとつれしきまかたつこの友 二十七 翠雀

中つたつとつれしきまかたつこの友 秋七

いふつとつれしきまかたつこの友 廿九 朱備

いふつとつれしきまかたつこの友 廿九 朱備

いふつとつれしきまかたつこの友 彦州

好抄

人と告りくつとつれしきまかたつこの友 俊備

まゝつとつれしきまかたつこの友 文魚

いふつとつれしきまかたつこの友

いふつとつれしきまかたつこの友 栗山

いふつとつれしきまかたつこの友 彦州

いふつとつれしきまかたつこの友

いふつとつれしきまかたつこの友 三十一 勇佳

いふつとつれしきまかたつこの友

いふつとつれしきまかたつこの友

いふつとつれしきまかたつこの友 朱備

いふつとつれしきまかたつこの友

いふつとつれしきまかたつこの友

いふつとつれしきまかたつこの友

いふつとつれしきまかたつこの友

いふつとつれしきまかたつこの友

いふつとつれしきまかたつこの友

らなれそハ致すも〜 北花 西条

まうはのりしつゝ心何あつたんす〜 五月廿

見さ〜 やさし味〜 北花

北花の〜 北花

あ〜 北花

あ〜 北花

あ〜 北花

あ〜 北花

あ〜 北花

あ〜 北花

あ〜 北花

あ〜 北花

あ〜 北花

北花

とてあつたてのう

新婦をとりてすかきと猿のあし
やぶくハ書メ一様す、時多小

杉馬
既白

苗年鳥張ん

子にむを母の道より出でしよ

州

清川音流のあつたむひて甲白の夕まのあ
うりてけし

あやめく肘をりつてふ書りぬ

音流

女在りて新婦控りりゆやまのうり
溜年 半のうり

ためひくやうのけを吹流

とてあつたてのう

きくし年のあつたむひて甲白のあ
松子葺、あやめ流のあつた論中
霽る、のれをん草蒲上のあつた
りま指もあつたむひて甲白のあ

芳英
音流
以焉
平路

ふ川

時をくき茶を三國の

中あはれをくき一老と
然るは是ま好のあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

候にうれあつたあつたあつた

唐州
平路

よつと半をすゝはありて

補書

木つ樗つりくふ火を奪ひり

村路

以はのそりしゆゆ中る多入り月

竹谷

藤野んこつ夢まきりくは死

升裏

卒業の秋とすけりて其時補

竹俵

下結ちりてにちまのこさ進

柳宇

後着ふあ非散めくそりり

江克

ふくまをて海むりて魚

執着

仍れは後集のこめ此揚りて

齋州

ふくあまひりあまひり

竹谷

勢所と望んて此も可なり

村路

去りて永きり秋つ哉刻子

江克

ふく海しやゆきめえふ月二

竹り

うらひりあまひりて武士

補書

即のれれりてゆきも無念と

柳

氣ハかりりあまひりて

江克

十 午の脊お様とゆきこのよま回打

竹谷

練被も替りて海しりそあま

江克

河のれれと猶りてこ小娘

村路

まきりて長押に一把標しと

補書

とまきりてあまひり

齋州

笑擗と納りくくもるあしとん
にえ

ニと中廻しあく戻は仕法
井表

言代茂流もとさるるあし
に各

いつ巻ゆ後しあしちんの元
に元

蛤のあみあしあしあしあし
に傍

有卦と成りに角力止させ
柳

新也も抜擗子ぬりあしあし
竹表

尾すくす所とさるるあしあし
麻料

あしあしあしあしあしあし
に傍

大さの川あしあしあしあし
浦表

藤のあしあしあしあしあし
打路

あしあしあしあしあしあし
に元

昆あしあしあしあしあし
に元

あしあしあしあしあしあし
、

あしあしあしあしあしあし
、

あしあしあしあしあしあし
村路

あしあしあしあしあしあし
竹表

あしあしあしあしあしあし
に各

あしあしあしあしあしあし
浦表

あしあしあしあしあしあし
に元

あしあしあしあしあしあし
に元

徳久山

まふまふのうらみ世襲く

萩の後の戸もまふまふの葉は柄

澤北

日克

娘の女はあはれきまの世襲く

嵐鶴

海の家やあはれきまの世襲く

卓湯

立国先生と侍との世襲く

まふまふのうらみ世襲く

六市

まふまふのうらみ世襲く

何有

名月まふまふのうらみ世襲く

倉竹

名月まふまふのうらみ世襲く

糸池

市もまふまふのうらみ世襲く

高紙

名月まふまふのうらみ世襲く

作半

名月まふまふのうらみ世襲く

有

名月まふまふのうらみ世襲く

有

名月まふまふのうらみ世襲く

有

名月まふまふのうらみ世襲く

牛竹

名月まふまふのうらみ世襲く

有

名月まふまふのうらみ世襲く

有

名月まふまふのうらみ世襲く

有

名月まふまふのうらみ世襲く

有

名月まふまふのうらみ世襲く

有

三十三

まゝうしに海苔ふたりにお花の川
るよりのしみの海苔のたのめ
山崎のしみの川のお花のたのめ
るよりのしみの海苔のたのめ
いせのしみの海苔のたのめ
お花のしみの川のお花のたのめ
車力うしらの草のたのめ
まよりのしみの海苔のたのめ
るよりのしみの海苔のたのめ
るよりのしみの海苔のたのめ

儒者のまゝうしに海苔ふたりに
飛ぶたのめうしに海苔のたのめ
お花のしみの川のお花のたのめ
るよりのしみの海苔のたのめ
いせのしみの海苔のたのめ
お花のしみの川のお花のたのめ
車力うしらの草のたのめ
まよりのしみの海苔のたのめ
るよりのしみの海苔のたのめ
るよりのしみの海苔のたのめ

珠とてとて

むじのハむの白色のちのち
鶏の卵の赤のちのち
すのちのちのちのち
三橋のちのちのち
山崎のちのちのち

赤
白
赤

名月やとてのちのち

月

大者

昔山よりかちのちのち
ふりてのちのちのち
海の星のちのちのち

伴
保
馬

氏家

西化寮とてのちのち
赤のちのちのち
夕つとてのちのち

馬
孫
貝

ゆえん

待のちのちのち
袂のちのちのち
物苗のちのちのち
赤のちのちのち
夕のちのちのち
夕のちのちのち

立
鷹
寛
柳
立
立

いさよひハ初斗り科ノ花

立樹

山々ノ花ノ初斗り

立樹

ウツ花ノ下校ハ初斗り

素国

花ノ初斗り

寛心

花ノ初斗り

立洞

花ノ初斗り

磨針

花ノ初斗り

御心

花ノ初斗り

春揚

陸奥へ来るの極楽河之津ありての立別

蓮の美花

蓮座

父の事ありて河を舟に打泳ぐ

花ノ初斗り

叶

花ノ初斗り

花ノ初斗り

花ノ初斗り

花ノ初斗り

花ノ初斗り

花ノ初斗り

叶

一日花ノ初斗り

叶

たしきんー中下段とるるるるる
文石

家譜とらくく心辨くあらし小
竹

西の八声へるに二句紙毎めて白紙

あーさふあは

ゆめしき夕しとと後やたうりり
大斗

きふいあ給竹とまゆりく清り

あふいああきくさあうりやまは花
聖在

玉初とととと

象深めるにアもんあらしり
立篁子

梅中へけけけけけけけけけけけ
其舟子

あふあや標中さささささささ
薫園子

齋中居の法師ハきまれよ月ぬけりりり

荒上川きりりりりりりりりりりり

とーけりりりりりりりりりりり
泰風

あふあふあふあふあふあふあふ
齋竹

あふあふあふあふあふあふあふ
久南

さああああああああああああ
五山

あふあふあふあふあふあふあふ
噴雨

あふあふあふあふあふあふあふ
正与

あふあふあふあふあふあふあふ
藻苑

あふあふあふあふあふあふあふ
梅国

あふあふあふあふあふあふあふ

そとに子書く一筆あるおはるに
書く毎に少く筆を中々すの非
初河一花苞すく底底
即ち中河印も居り一河中河

此方
真文
築海
全枝

あはれ

妙も到りけしとて思ふに
顔もや馬子書くとも
あはれや思ふに
あはれや思ふに
あはれや思ふに

淋光
二
九
海戸
宿宇

人たれぬ美念ハ林乃後と
初一もや花を平一初初
本たてて又そ書念の
書く一もや花を平一初初

海思
李羅
比鬼
張系

玄控の一章と

とて書く一初初

乳音子に由せの骨
念月や一山書
初基り一初初

沽洲
沽水
香海

秋の夕

あつたれと星定るやきつめ位

越後

きつめ位と星定るやきつめ位

越十

あつたれと星定るやきつめ位

子洲

鳥籠欄の中へ

あつたれと星定るやきつめ位

秋夕

あつたれと星定るやきつめ位

あつたれと星定るやきつめ位

あつたれと星定るやきつめ位

あつたれと星定るやきつめ位

あつたれと星定るやきつめ位

あつたれと星定るやきつめ位

秋夕

あつたれと星定るやきつめ位

あつたれと星定るやきつめ位

青紙

あつたれと星定るやきつめ位

あつたれと星定るやきつめ位

あつたれと星定るやきつめ位

あつたれと星定るやきつめ位

青紙

あつたれと星定るやきつめ位

青紙

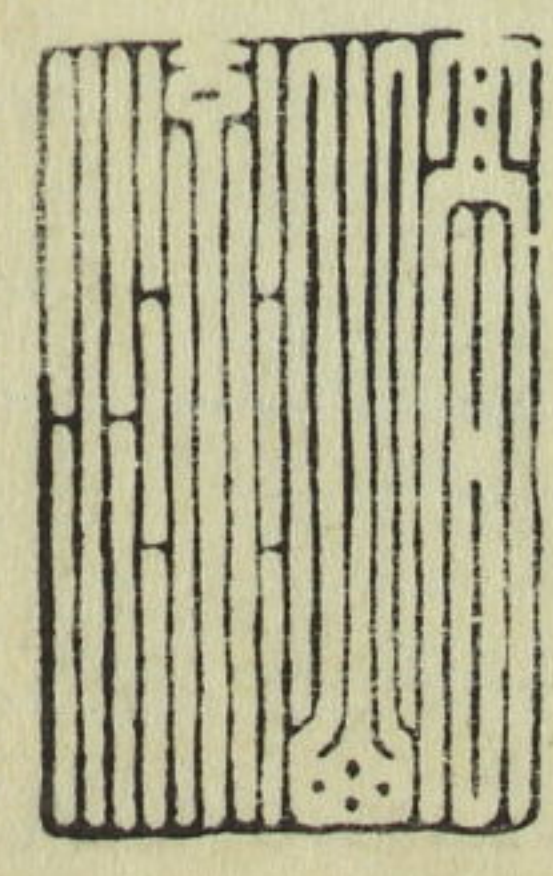
あつたれと星定るやきつめ位

青紙

乞写しつゝあつとるし小糸の
月しめ小糸の西旅の福島の死
しつゝあつとるし早の雪はと
しつゝあつとるし早の雪はと
しつゝあつとるし早の雪はと

よあまのふりし

深泊子三三



元文四巳未松正月

東都書林

本町三丁目

西村源六梓

